

地域とのつながり 杯で育む



「コーヒーの入れ方などについて学ぶ「晩酌の会」のメンバーら

高齢男性ら 孤立防止へ「晩酌の会」

仙台市泉区の長命ヶ丘団地内で、高齢世代の男性が集う「晩酌の会」が多彩な活動を進めている。仕事の関係などで長年、地域との関わりが薄かった男性が多く、孤立を防ごうと発足した。1970年代に造成が始まった団地の高齢化率は40%を超え、市全体の25・2%（今年3月末現在）を大幅に上回る。定期的な酒席の交流を楽しみつつ、コーヒーの

仙台・長命ヶ丘

入れ方を学ぶ講座なども開き、生活に生かせるスキルを磨く。
 会は昨年10月に活動を始め、地元飲食店で月1回、晩酌の集まりを開催する。メンバーは現在、長命ヶ丘4丁目に住む7人で、全員70歳以上。団地内の民生委員を務める元東北学院大特任教授の本間照雄さん（74）が、東日本大震災の被災者支援の経験などを基に企画した。
 エリアを広げて参加者を募る「拡

活動多彩 コーヒー講座も

大版」も開き、「気軽に交流できて楽しい」と好評だ。会長の勝倉和弥さん（85）は「長命ヶ丘に40年以上住んでいて、地域の事は妻任せで、初めて知り合った人がほとんど。近隣住民と顔なじみになり安心感があると話す。

活動の幅を広げようと、8月19日には団地内のカフェ「エムカフェコーヒーロースタリー」の協力でコーヒー講座を開催。カフェ代表の沼田実千代さん（64）を講師に、豆の品種や産地、焙煎方法による味の違いや入れ方などの基礎知識を学び、ハンドドリップの実技に挑戦した。

参加した山田幹夫さん（78）は「コーヒーの奥深さを実感した。おいしい入れ方をまた練習してみたい」と笑顔を見せた。今後、地域の催しなどでメンバーがコーヒーを入れる。
 本間さんは「お茶飲み会などは女性の参加が多くなりがちだが、テーマを設けると男性が参加しやすい傾向がある」と分析。郊外団地の高齢化が進む中で、「シニア世代の男性の孤立を防ぎ、活動の幅を広げるヒントをメンバーと共に模索したい」と意欲を見せる。